

埼玉県内都市間競争の素顔
- - - 「民力」の数値から - - -

はじめに

さいたま市の誕生までは、埼玉県は政令都市を持たない大県であった。人口40万台から5万人そこそこまでの43市が並び、バブル期まではいずれも人口増が続いた。

バブルの崩壊は、護送船団方式の崩壊でもあったが、都市の場合も同様である。それぞれの都市が自立を求められ、自らの選択によって個性を発揮しなければ住民から見切りをつけられる時代になってきた。求心力を持つ都市に吸収され、離合集散の時代でもある。

それぞれの都市の状況が大きく変わっていることは、地域を見つめ、土地取引の流れを把握すべき不動産鑑定士としても気になることである。

これまでの常識がこれからも通用するのか、それとも状況が変わっているのか、確かめなければ、地域の先を読むべきがない。

そのために、朝日新聞社の「民力」1994年版、1997年版、2000年版、2003年版のデータを整理してみようと思立った。

それによって、規模を生かしているところ、道路網の整備が功を奏しているところ、東京の影響を強く受けているところなど、様々な都市の変化が見つけられることになった。

平成17年の合併特例法の期限を受け、埼玉県内の市町村も合併論議が各地で起きた。無理に急いだためかご破算になったところも多い。本来であれば、起債がやりやすいという理由よりも、市民の共通意識から合併気運が高まる方が望ましい。

数年後に、同じ方式で分析をして、合併の効果がどうなったかも検証してみたいものである。

1. 特徴的なこと

各都市の個別的な状況は、各都市の概要を見ていただきたい。

全般的な感想をするならば、つぎのようなことがいえる。

外環自動車道沿線の都市の成長が見られる

和光、戸田、朝霞、八潮、吉川の各市

関越高速道沿線の工業都市が伸びている。

狭山、川越、東松山、本庄、深谷、熊谷の各市

大都市よりも10万人前後のマチの中でよい数値を上げている都市がある。

しかし、一般的には20万人以下の都市は個性があまりないようで、周辺の大都市に引っ張られる傾向が強い。

これからの都市間競争は優勝劣敗であろう。共存共栄をしていくためには、それぞれが個性を持って機能分担をしなければ難しいのではないか。同じような金太郎飴のマチは、好まれないと考えられる。それぞれが、「いつかは住みたい町」を目指して住民サービスを競争する時代であろう。そのためには財政基盤を持つために小規模な都市は存立し続けることが難しいであろう。

総面積	32位	33位	34位	35位	36位	37位	38位	39位	40位	41位
人口	北本	朝霞	戸田	八潮	鶴ヶ島	和光	志木	上福岡	鳩ヶ谷	蕨
人口伸び率	岩槻	和光	鶴ヶ島	幸手	狭山	吉川	羽生	鳩ヶ谷	上福岡	日高
DID地区人口比	蓮田	八潮	坂戸	鳩ヶ谷	加須	幸手	日高	秩父	蕨	上福岡
DID地区推移	和光	日高	幸手	深谷	上福岡	熊谷	羽生	東松山	本庄	秩父
昼夜間人口比	志木	蕨	鳩ヶ谷	志木	鴻巣	本庄	北本	富士見	坂戸	幸手
同 推移	鴻巣	吉川	秩父	春日部	飯能	上福岡	鳩ヶ谷	北本	蓮田	鶴ヶ島
若者比率	志木	本庄	鳩ヶ谷	東松山	岩槻	和光	坂戸	深谷	行田	戸田
高齢化緩和度	行田	蓮田	蕨	狭山	熊谷	上福岡	鳩ヶ谷	幸手	上福岡	蕨
若老比率	東松山	本庄	熊谷	行田	飯能	鳩ヶ谷	羽生	本庄	上福岡	秩父
若老比推移	人間	上福岡	秩父	鶴ヶ島	久喜	坂戸	狭山	幸手	上福岡	日高
商店販売額	北本	和光	吉川	幸手	飯能	羽生	鳩ヶ谷	志木	日高	上福岡
同 人口あたり	富士見	志木	東松山	朝霞	秩父	飯能	蓮田	日高	坂戸	上福岡
同 推移	鴻巣	東松山	越谷	熊谷	秩父	戸田	上福岡	鳩ヶ谷	狭山	朝霞
小売業販売額	八潮	幸手	飯能	北本	志木	吉川	羽生	鳩ヶ谷	上福岡	日高
同 人口あたり	坂戸	富士見	朝霞	羽生	鴻巣	鳩ヶ谷	飯能	蓮田	上福岡	日高
同 推移	鴻巣	志木	本庄	春日部	飯能	狭山	朝霞	所沢	上尾	上福岡
小売業商店数	八潮	鳩ヶ谷	北本	志木	上福岡	羽生	鶴ヶ島	吉川	日高	和光
同 人口あたり	さいたま	人間	日高	蓮田	富士見	所沢	新座	上尾	朝霞	和光
同 推移	鳩ヶ谷	上尾	所沢	新座	飯能	川口	羽生	和光	朝霞	戸田
スーパー店舗数	蕨	吉川	志木	日高	幸手	八潮	八潮	上福岡	鳩ヶ谷	和光
同 人口あたり	新座	蓮田	加須	幸手	草加	深谷	深谷	上福岡	鳩ヶ谷	和光
同 推移	草加	戸田	桶川	上福岡	行田	鴻巣	北本	深谷	久喜	和光
工業出荷額	蕨	日高	朝霞	桶川	上福岡	鶴ヶ島	春日部	北本	鳩ヶ谷	志木
同 人口あたり	川口	北本	鳩ヶ谷	坂戸	坂戸	志木	さいたま	春日部	吉川	所沢
同 推移	八潮	川口	坂戸	鴻巣	越谷	朝霞	戸田	鳩ヶ谷	戸田	所沢
飲食店数	幸手	桶川	鴻巣	羽生	北本	志木	入間	鳩ヶ谷	蓮田	和光
同 人口あたり	久喜	北本	志木	富士見	新座	日高	鴻巣	入間	新座	戸田
同 推移	人間	草加	坂戸	所沢	志木	朝霞	越谷	鳩ヶ谷	所沢	川口
工業/小売比率	朝霞	鶴ヶ島	岩槻	志木	蕨	春日部	所沢	和光	蕨	川口
同 推移	越谷	八潮	加須	人間	鳩ヶ谷	戸田	春日部	狭山	秩父	幸手
世帯当たり着工戸数	東松山	日高	戸田	桶川	入間	坂戸	春日部	狭山	秩父	戸田
同 推移	加須	越谷	東松山	所沢	和光	飯能	春日部	桶川	幸手	春日部
所得格差	八潮	行田	志木	幸手	熊谷	深谷	鳩ヶ谷	羽生	本庄	秩父
同 推移	上尾	川口	幸手	岩槻	草加	春日部	吉川	鳩ヶ谷	新座	八潮
預金残高	志木	羽生	川口	北本	和光	鳩ヶ谷	入間	鶴ヶ島	日高	八潮
同 人口あたり	鳩ヶ谷	和光	久喜	戸田	狭山	吉川	戸田	鳩ヶ谷	鶴ヶ島	八潮
同 推移	日高	加須	志木	秩父	鴻巣	入間	上福岡	朝霞	吉川	八潮
世帯当たり乗用車数	さいたま	新座	新座	川口	戸田	草加	朝霞	鳩ヶ谷	和光	蕨
同 推移	越谷	所沢	新座	川口	さいたま	志木	朝霞	鳩ヶ谷	戸田	和光

3. データの内容

「民力」は朝日新聞社が全国の地域別資料を基に毎年発行している。

「民力とは、生産、消費、文化などの分野にわたって国民が持っているエネルギーである」と定義し、民力指数は、全国を10万とした都市圏ごとの構成比率を総合化（算術平均）したものである。また、一人あたり民力水準は、全国平均を100としたものである。

そのため、各都市圏の産業が発展したとしても、その歩みが全国の平均を下回るときには、民力指数は低下する。

「都市圏」は全国664の市と13政令市、23区を中心とした地域データ単位である。人間の経済活動は、行政区画の枠を超え、独自の有機的つながりを基に生活圏が形成されている。それらの関連度合いを比較して、他の市よりもある市に強い関連を持つ町村とその市自体が結合した領域の地域を都市圏と呼ぶこともできる。

都市圏の結合度はそれぞれであり、近隣に大都市があれば中心核の求心力は小さい。市町村合併の進む中では、小都市は近隣の都市と合併して新たな都市圏を構成することになるだろう。

住民基本台帳人口

総務省自治行政局市町村課編「住民基本台帳人口要覧」による

国勢調査との違いは、国勢調査が、日本人以外の外国心を含めた数値であるのに対し、住民基本台帳は日本国籍を有するもののみとなっている

人口集中地区人口(DID地区人口)

総務省統計局統計調査部国政統計課編「国政調査報告第1巻人口総数」による

「市区町村の区域内で人口密度の高い調査区（1平方キロあたり約4千人）が隣接して、調査時の人口が5千人以上となる地域をいう」

都市人口の実態を明らかにする統計資料が人口集中地区人口であり、人口集中地区人口比は、人口集中地区人口が総人口に占める割合。

昼夜間人口比

昼夜間人口比（常住人口比）とは、国勢調査の夜間人口に対し昼間人口の割合を見たもので、各都市の周辺への寄与、依存の関係が明確になる。なお、この昼間人口には、業務や買い物およびレジャーなどの非定期的な移動は含まれていない。

若年者高齢者比率

02年度の若年者比率は戸田、吉川、朝霞、和光の外環道沿線、加須、本庄、深谷の北部都市の比率が高い。鶴ヶ島、三郷、草加市は、老人の比率が少ないが、若者もそれほど多くない。

いずれの市も9年の間に高齢者が増えているが、その程度は様々である。15歳人口比率から65歳人口比率を差し引いたものを若老比率と称した。老人比率の方が高いとマイナスになってくる。93年には、北区を除きいずれもプラスであった。若者の方が多かったのである。しかし、02年になると17市がマイナスになった。若老比率が下位の市は、秩父、上福岡、蕨、羽生、鳩ヶ谷といずれも大きな変化がない小規模都市である。戸田、朝霞両市は、若者の減少が1%以下であり、ごくわずかである。若者の比率はあまり変わらないために老人世帯の増加が大きく影響していると思われる。一方、日高、三郷、幸手、狭山、坂戸、久喜、鶴ヶ島の各市は若老比推移が下位にあり、若者の減少と老人の増加により、今後労働者世代の減少（衰退）が予想される。なお、高齢者の比率は少ない方が活力があると考えられるので、高齢者人口の少ない方を1位としてとらえた。

小売業総商店数

経済産業省経済産業政策局調査統計部産業統計室編「商業統計表」による

製造業、小売業事業所の合計である。

スーパーマーケット店数

(株)商業界編 日本スーパー名鑑による

スーパーマーケットは、売り場面積が231㎡(70坪)以上で、原則として販売方法にセルフサービスを採用し、生鮮食品のうち、何か一つ以上を販売、食品の売り上げが総売上の50%以上を占める店をいう。

便宜的にスーパーマーケットとしているが、セルフサービスを採用している店すべてを対象としているために、いわゆるスーパーのほかディスカウント店、ドラッグストアも含み、基準に該当する生協、農協も含まれている。

工業製造品年間出荷額

経済産業省経済産業政策局調査統計部産業統計室編「工業統計表」による

1カ年間に従業員4人以上の事業所(工業)が製造したもののうち、出荷した分の価格総額である。

所得格差

総務省自治税務局市町村税課調「市町村税課税状況等の調」

所得格差は、人口1人あたり所得(課税対象所得額)について全国平均(145.2万円)を100とした場合の各都市における水準値である。額面所得ではなく、給与所得の場合、年間総給与額から給与所得控除を差し引いただけの課税対象所得額を呼んでいる。

全国銀行預金残高

日本銀行調査統計局経済統計課編「金融経済統計月報」による

原則として金融機関店舗の所在地区分によっている。郵便局の残高は含まれていない。国内銀行(都市銀行、地方銀行、第2地方銀行、信託銀行、長期信用銀行)は店舗のある都市ごとに残高が公表されている。店舗のない都市は残高がないことになる。

商店販売額/人口

吉川は倍増している。

ほとんどの市が商店販売/人口は減少している。その中で桶川、幸手、八潮、和光、蕨、羽生、本庄、岩槻、新座の各市の増加は目立つ

ベスト10は、大都市とは限らない。ワースト10は西部地区に多い。小売店推移と商店販売/人口の両方に顔を出すのは、朝霞、狭山、上福岡、鴻巣。商業全般が衰退傾向なのだろうか。

商店販売額で見ると、おおむね人口順となる。しかし、熊谷が川越の上に割り込み、所沢が落ち込んでいる。

工業製造品出荷額

工業製造品出荷額は、人口あたりで見ると軒並み下落している。バブル崩壊後、中国を中心とするアジア圏の工業化が進み、価格破壊、埼玉工業の空洞化が進んだのだろうか。その中で北本、本庄、羽生、吉川だけがプラスとなっている。

ベストは40キロ圏より遠い市が多く、ワーストは県南地区に多い。

工業製造品出荷額/人口

狭山が群を抜いて高い。

狭山、熊谷、本庄、川越、さいたま いずれも工業団地を持つ都市

人口あたりで見ると、本庄、八潮、羽生、深谷が高いことがわかる。八潮は工業都市なのだろう。

一方、越谷、春日部、さいたま、志木、坂戸、朝霞、はいずれも工業よりもベッドタウンとしての性格が強い。川口が低い位置にいることは、これまでの鋳物の町=工業都市川口がすでにベッドタウン化していることを示しているといえる。

工業/小売販売比率

ほとんどの都市が下落している。小売が増えているというよりも工業の下落が大きいというべきだろう。

プラスの都市 本庄（36.6%）上福岡（26.5%）北本（18.1%）
上福岡は小売下落トップ（マイナス30.3%）の反動であろう。

小売推移

和光は人口が増加する以上に小売も伸びている。

小売商店数 / 人口推移

人口あたり小売店数

人口が減少しているのに小売店が変わらなければ、数値は高くなる。古くからの町ほどパパママストアが残り、結果として数値は高いが、中身として住民サービスが高いとはいえない。
人口増の東上沿線は、小売店数 / 人口の値が総じて低い。

小売商店数

おおむね人口順であり、商業売上げと似通っている。商業販売額と比べると所沢が越谷、春日部に抜かれ、上尾が草加、東松山に抜かれている。
和光が少なく、日高を下回るが、1店あたり売上げは多い。
鶴ヶ島は1店あたり売上げは多いが小売業商店数は低い。（効果的に売れている店が多いのか）

スーパーマーケット店数

鶴ヶ島、北本、坂戸、桶川、上尾はスーパーの多い町
スーパーマーケット店数はすべて増加している。
増加率が高いのは、志木を除くと郊外型都市である。

飲食店

多い町は、横浜、さいたま、宇都宮、千葉、川崎と大都市が並ぶ。人の集まるところに飲食店が多いことを示している。桶川、日高、鶴ヶ島が増加している
その中で、飲食店が減少しているところもある。川崎、高崎、戸田、新座、朝霞、鴻巣、足立、

世帯当たり乗用車数

車の増加が多いのは、35から60キロ圏。
県南でも草加、八潮、蕨は10%以上の伸び。吉川、八潮が台数平均以上であるのは、都心へのアクセスが悪いからだろうか。
和光は、1世帯当たりの台数が唯一減っている。
多くの市が車の台数は増えている。志木、朝霞、鳩ヶ谷、和光、戸田はあまり増えていないといえる。
蕨は台数の最低。アパートの多い町であるため、駐車スペースがとれないのだろうか。
同様に、31キロ圏の上福岡も台数が少ない。公団とアパートの多い町であるためか。

着工戸数

1世帯当たりの着工戸数はかなりの波がある。しかし、全体的には減少傾向にある。平均下落率マイナス35.5%。
全体は00年まで減少しており、03年に+2.1%の増加に転じている。
バブル崩壊後都心回帰現象が明らかなのだろう。
上福岡のマイナスが小さいのは、分母である人口が減少しているのに加えて、公団住宅の建て替えが進んでいることだろうか。
戸田の下落が大きいのが、94年の戸数がダントツに大きい。その反動から下落が大きくなっている。94年当

時に大規模マンションがあったのだろうか。

所得格差

バブル期は都内の所得が高かった。

全体に県北の所得水準は低い。

表中の平均は、93年(115.9)96年(113.7)99年(111.4)02年(111.2)徐々に格差が縮小に移っている。

県北の各市の所得が上がっている。深谷の+4%、本庄の+1.8%

吉川、和光の上位が目立つ

絶対値として、戸田、朝霞、志木、和光は高い数値を示している。

県南各都市はおおむね高い。しかし東京に近いことイコール所得が高いとはいえない

その中で鳩ヶ谷(100.6)八潮(100.3)が目立つ

預金残高

金融機関のないところは、統計上数値がない。そのため中核都市ほど上位にくることになる。

おおむね人口順に預金残高が並んでいる。川崎よりも船橋の方が高いのは川崎の指標が沿岸部だけだからなのか。

増加しているのは藤沢、町田、柏、所沢、鎌倉が目立つ。一方、前橋、足立、北、横須賀、川口の下落も注目される。

他県の数値も見ると、柏、町田、所沢、船橋、東京に近い高級住宅地を持つ町の伸びが高い。一方、戸田、鳩ヶ谷、八潮、吉川等県南都市の下落が大きい。都市銀行の支店統合により減少したものだろうか。

とはいえ、大都市がそれほど高くなっているわけではない。

横浜(11位 12位)埼玉(4位 2位)宇都宮(7位 10位)川崎(8位 15位)千葉(3位 8位)高崎(15 22位)

人口あたりの預金残高は、その年の実力を示すものだろう。

鎌倉、浦和、藤沢の預金が多い。預金と関連するであろう所得も見ると鎌倉(149.5)埼玉(127.2)藤沢(131.5)

一方所得が高い戸田は所得126なのに預金は58位、和光は所得134に対し56位。銀行に預金する自営業者でなく、サラリーマンが多いのか、それとも戸田和光両市の人は、ほかに投資をしているのだろうか。

しかし、川越(所得=111.4, 預金=35位)所沢(所得=122.1, 預金=16位)越谷(所得=109.3, 預金=23位)熊谷(所得=96.1, 預金=21位)を見ると、所得と預金の中には相関関係はないのかもしれない。

上福岡の預金残高/人口が高いのは高齢者世帯が多いせいだろうか

4. 都市圏の概要

さいたま都市圏	埼玉県庁所在地。浦和、大宮、与野の3市合併により県下初の100万人とし、2003年4月政令指定都市。東北、上越、長野新幹線の結節点。武蔵一宮（氷川神社）見沼通船堀ジョンレノンミュージアム				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売額 (億円)	所得格差	主要産業
742.2 817.5	1市	102.9	11459	102.1	製造業
人口(1位)	総面積(6位)	小売商店推移(38位)	飲食店数推移(39位)		
商店販売額(1位)	人口伸び(5位)	工業出荷/人口(38位)	工業小売比率(40位)		
商店販売額/人口(1位)	DID人口比(10位)	乗用車数推移(36位)			
小売業販売額(1位)	小売販売/人口(5位)				
小売業商店数(1位)	工業出荷(5位)				
スーパー店舗数(1位)	預金推移(5位)				
飲食店数(1位)	若者比率(10位)				
預金残高(1位)	若老比推移(4位)				
預金残高/人口(1位)					

民力指数の伸びは1位。横浜を上回る伸びとなっている。合併の効果であろうか。しかし一人あたり民力水準の推移を見るとほぼ横ばいであり、県内39位と低位にある。

人口百万の市であり、10年間に約1割、鴻巣市並の人口が増えたことになる。主要産業が製造業といっても、工業製造品出荷額は13位。より消費都市化が進んでいる。政令指定都市であっても、昼夜間人口比は91.3%、県内では11位に位置している。横浜同様に東京のベッドタウンは否めない。

若者と老人の比が上位にいるのは、政令都市に若者が集まっているということができるだろう。

川越都市圏	川越城の城下町。中核市。春日局ゆかりの喜多院、東照宮。蔵造りの町並み。川越祭り。童謡「とおりゃんせ」の発祥地。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売額 (億円)	所得格差	主要産業
284.0 315.9	1市2町	39.4	3,998	111.4	農業、製造業、商業、観光
人口(3位)	総面積(7位)				
小売り販売(3位)	工業出荷額(4位)				
小売商店数(3位)	商店販売額(4位)				
スーパー店舗数(3位)	商店販売/人口(6位)				
飲食店数(3位)	小売販売/人口(7位)				
預金残高(3位)	着工戸数(9位)				
	昼夜間人口比(10位)				

大井町、川島町

人口集中地区人口比76%、市街化比率24.5%。他の30万都市と比べてみると低い。所沢(88.0%,83.0%) 越谷(87.7%,81.6%) 川口(96.4%,84.7%) 都市化が進んでいないというよりも、総面積7位であり、周辺に余裕が残っているということだろう。

民力指数の伸びは、さいたま、川口に次いで第3位。上記の項目の中に31位以下の項目が一つも出てこないのは、川越市だけ。民力の項目ではあまり悪い項目がないことになる。

熊谷都市圏	県北の中心都市。上越新幹線停車駅。源平時代の武将熊谷次郎直実ゆかりの地。うちわ祭り。五家宝。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
210.9 219.0	1市7町村	27.2	3106	96.1	商業
総面積(3位) 商店販売額(3位) 商店販売/人口(3位) 小売販売/人口(3位) 小売商店数/人口(3位) 工業出荷額(2位)	人口(7位) 昼夜間人口比(4位) 小売販売(4位) 小売商店数(4位) スーパー店舗数(8位) 工業出荷推移(5位) 工業出荷/人口(6位) 飲食店数(5位) 飲食店数/人口(5位) 工業/小売比率推移(9位) 所得格差推移(5位) 預金残高(7位) 預金残高/人口(8位) 乗用車数(4位)	DID人口比(37位) 商店販売推移(35位) 所得格差(36位) 若老比率(33位) 高齢化緩和度(35位)			

大里町、江南町、妻沼町、川本町、花園町、寄居町、南河原村

県北の中核都市、圏域人口は中核市並み。

一人あたり民力水準は、101.8。所沢や、川口と匹敵する都市指標となっている。東京のベッドタウンの性格が薄いため、より拠点性が出ている。

ただし、DID人口が下がり若者よりも老人の増加が進んでいるのは、将来の活力低下を予想させる。

川口都市圏	荒川を挟んで東京に隣接する。鋳物と植木の町で知られたが、マンション等によりベッドタウン化。エルザタワーは東洋一の高さを誇るマンション。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
329.9 366.6	1市	46.4	4356	111.4	製造業
人口(2位) 商店販売額(2位) 小売販売額(2位) 小売商店数(2位) スーパー店舗数(2位) 飲食店数(2位)	DID人口比(8位) 商店販売額/人口(8位) 小売販売/人口(10位) 工業出荷額(6位) 飲食店数/人口(4位) 着工戸数(10位) 着工戸数推移(7位) 預金残高(5位) 若老比推移(10位)	小売商店推移(37位) 工業出荷推移(32位) 工業小売比率推移(32位) 預金残高/人口(34位) 乗用車数(35位) 乗用車数推移(35位)			

人口2位、市街化比率86.9%、DID地区人口96.4%。都市化の進んだ都市である。鳩ヶ谷、蕨の隣接都市が都市圏に含まれていないために、実感よりも民力指数が低い。一人あたり民力水準が100.0と全国平均並みであることが、個人の水準上昇を目指し、さいたま市同様今後の課題であろう。

工業出荷額はマイナス36.5%。工業の占めるウェイトは低下している。着工戸数が増加著しいのは、マンションをはじめとするベッドタウン化を示す指標である。ラムザタワーだけでなく、町工場がマンション化しているのは、東京江東区や品川区と同様だろう。

行田都市圏	さきたま古墳で有名な県名発祥の地。国宝の金錯銘鉄剣。伝統ある行田足袋。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
86.5 87.8	1市1町	11.4	1022	99.8	製造業
	DID地区推移(5位) 小売商店/人口(4位) 小売商店推移(10位) 工業出荷/人口(8位) 工業小売比率(7位) 所得格差推移(6位) 預金残高/人口(10位) 乗用車数(9位)		所得格差(33位) スーパー店舗推移(36位) 高齢化緩和度(32位) 若老比率(35位)		昼夜間人口推移(40位)

吹上町

人口は微増、上位項目の多くは人口が分母となっている項目が多い。人口に大きな変化がないために足しよりも数値が上位に行くことになる。

工業化と所得水準、DID地区人口比、乗用車数の上昇が目立っている。しかし、民力の9年間の伸びを見ると1.3%であり、県内34位。商業や小売の伸びが小さいことの表れともいえる。

秩父都市圏	秩父多摩国立公園を含み県西部の丘陵地帯を含む広大な都市圏。日本最古の和銅採掘遺跡。秩父夜祭り。秩父リゾート構想				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
93.8 85.0	1市8町村	12	1109	77.5	製造業、建設業、商業、観光、サービス業
総面積(1位) 小売商店/人口(1位) スーパー推移(1位) 飲食店数/人口(2位) 飲食店推移(1位) 乗用車数推移(3位)	昼夜間人口比(6位) 小売商店数(10位) 小売商店推移(5位) 乗用車数(6位)		昼夜間人口推移(34位) 商店販売/人口(36位) 商店販売推移(36位)預 金残高推移(35位) 若老比推移(34位)		人口伸び(39位) DID人口比(41位) 着工戸数(39位) 所得格差(41位) 高齢化緩和度(41位) 若老比率(41位)

横瀬町、皆野町、長瀬町、吉田町、小鹿野町、両神村、大滝村、荒川村

総面積1位とはいえ、その内実は秩父山地に囲まれた盆地。平坦地が少なく、外界から閉ざされた独自の経済圏となっている。人口の減少が続いているため、1位から3位の項目はいずれも分母となる数値の減少による項目が多く現れている。

一人あたり民力水準は、89.8，マイナス3.7。民力水準を9年間の推移で見ると、県内で唯一水準が下落している都市である。高齢化が進み、若者のひも最下位である。民力水準そのものも、最下位の三郷、春日部に次いで悪い数値となっている。

所沢都市圏	東京都に隣接する県西部の中核的都市。西武球場。航空発祥の地。トト口の森。				
民力総合指数 (94年)(03年) 232.5 248.5	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
	1市	33	3015	122.1	サービス業、他
預金残高(2位) 預金残高/人口(5位) 預金残高推移(2位)	人口(5位) 昼夜間人口推移(9位) 商店販売(8位) 小売販売額(5位) 小売商店数(7位) スーパー店舗数(5位) スーパー推移(9位) 飲食店数(7位) 所得格差(6位)	小売商店/人口(37位) 着工戸数推移(35位) 乗用車数推移(33位)	小売販売推移(39位) 工業出荷/人口(41位) 工業出荷推移(41位) 工業小売比率(41位) 工業小売推移(40位)		

民力総合指数は、248.5，県内第4位である。これに対し、一人あたり民力水準は95.2。全国平均を下回ることになる。

預金残高が高いのは、東京都下も営業エリアとする銀行支店が多いためだろうか。
30万都市であっても、工業系の数値が軒並み低い。大型の工業団地を持たず、関越高速道に関連した流通や小売業にシフトしたことの表れ。

飯能都市圏	奥武蔵自然公園の玄関口。江戸期には西川材(優良な杉、檜)の集散地として発展。				
民力総合指数 (94年)(03年) 57.6 62.0	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
	1市1村	8.5	609	102.4	農業、製造業
	総面積(4位) 人口伸び(10位) スーパー/人口(10位) スーパー推移(5位) 飲食店/人口(8位) 所得格差推移(10位)	昼夜間人口推移(36位) 商店販売額(36位) 商店販売/人口(37位) 小売販売(34位) 小売販売/人口(38位) 小売販売推移(36位) 小売商店推移(36位) 着工戸数推移(37位) 高齢化緩和度(35位) 若老比率(36位)			

名栗村

公団と西武の団地建設による人口増があった。
昼夜間人口比に見られるようにベッドタウン化した証が見られる。しかし、若者と老人の比率は低位にあること、小売、商業ともに低位を示しており、今後の都市の個性がどこに向かうのかは、よく見えない。

加須都市圏	総願寺（不動岡不動）の門前町として栄えた。鯉のぼりのふるさと（生産量日本一） 111mのジャンボ鯉のぼり。				
民力総合指数 (94年)(03年) 70.0 76.7	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
	1市2町	10.4	828	95	製造業、商業、サービス業
DID地区推移(1位) 乗用車数推移(1位)	総面積(9位) 人口伸び(9位) 商店販売推移(9位) 小売商店/人口(10位) 工業出荷/人口(10位) 工業出荷推移(6位) 工業小売比率(8位) 工業小売推移(7位) 乗用車数(5位) 若者比率(4位) 若老比推移(6位)	DID人口比(36位) スーパー/人口(33位) 着工戸数(33位) 着工戸数推移(32位) 所得格差(38位) 預金残高推移(33位) 高齢化緩和度(33位)			

騎西町、大利根町

加須インターを中心とする車社会であろう。乗用車の数値が高い。
工業小売比率も高く、工業都市といえるだろう。行田、加須、羽生の3市の中では高い人口増を示している。
若者比率が高く、高齢化も進んでいるのは、本庄市と同様か。

本庄都市圏	中山道の宿場町。明治以後は繭の集散地。				
民力総合指数 (94年)(03年) 103.9 110.4	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
	1市4町	13.7	1217	87.2	製造業
昼夜間人口比(3位) 工業出荷額(3位) 工業出荷/人口(2位) 工業出荷推移(2位) 工業小売比率(2位) 工業小売推移(1位) 所得格差推移(2位) 乗用車数(2位)	総面積(5位) 商店販売推移(8位) 小売商店/人口(5位) 飲食店/人口(7位) 若者比率(4位)	DID地区推移(37位)昼 夜間人口推移(33位)小 売販売推移(34位) 若老比推移(33位)	DID人口比(40位) 所得格差(40位) 高齢化緩和度(39位)		

美里町、児玉町、神川町、上里町

工業小売比率1位に示されるように、工業を中心とした都市。昼夜間人口比3位は、八潮、戸田につぎ、熊谷を上回っている。

一人あたり民力水準は101.9であり、熊谷の101.8を抜いて高い。
若者比率が高いものの、高齢化も進んでおり、生産人口が少ないことをうかがわせる。

東松山都市圏	県央に位置し、市場町として発展した田園都市。吉見百穴等の古代遺跡。こども動物自然公園。豚のカシラ肉を使用したやきとりが有名。日本スリーデーマーチは世界第2位の開催規模を誇る。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
143.7 150.9	1市7町村	20	1620	97.9	製造業
総面積(2位) 飲食店推移(3位)	人口(10位) DID地区推移(9位) 昼夜間人口比(9位) 小売販売額(10位) 小売商店数(8位) スーパー店舗数(9位) スーパー店舗/人口(7位) 工業出荷額(7位) 工業出荷/人口(9位) 飲食店数(9位) 飲食店/人口(9位) 工業小売比率(9位) 乗用車数(7位) 乗用車数推移(6位) 預金残高(10位)	昼夜間人口推移(35位) 商店販売/人口(33位) 商店販売推移(33位) 着工戸数推移(32位) 所得格差(34位) 若老比率(32位)	DID地区人口比(39位)		

滑川町、嵐山町、小川町、都幾川村、玉川村、吉見町、東秩父村

比企群市の中心として、近隣町村から人を集めている。工業、小売、飲食ともに上位であり、乗用車や預金残高が高いことも都市基盤が整備されていることを示しているのではないが。

一人あたり民力水準が低いのは、所得水準が低いからであろう。

岩槻都市圏	人形の町で知られる城下町。日光御成街道の宿場町。ひな人形等の出荷額は日本一。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
82.3 84.8	1市	11	992	103.2	製造業
昼夜間人口推移(3位)	昼夜間人口比(5位) 小売販売推移(5位) 飲食店推移(7位) 商店販売/人口(9位)	工業小売推移(36位) 所得格差推移(34位) 若者比率(35位)			

昼夜間人口比が伸びている。小売も伸びている反面工業小売比率が低下している。工業が低下したというよりも小売の伸びが大きかったからであろう。

東部の越谷、春日部に比べると、民力総合指数は84.8。越谷(243.2)春日部(224.1)と比べものにならないが、一人あたり民力水準では97.5 越谷(90.9)春日部(87.5)を大きく上回っている。

春日部都市圏	日光街道の宿場町として発展した県東部の住宅都市。樹齢1200年の牛沼の藤（国の特別天然記念物）ふじ通りのふじ棚（総延長1キロ＝日本一）桐タンス、押絵羽子板が特産																
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業												
156.4 181.5	1市3町	32.4	2816	102.8	商業												
	総面積(10位)	人口(6位)	DID地区推移(6位)	商店販売額(7位)	小売販売額(7位)	小売商店数(6位)	スーパー店舗数(4位)	飲食店数(6位)	預金残高(6位)	昼夜間人口比(35位)	小売販売推移(35位)	飲食店推移(33位)	工業小売比率(38位)	着工戸数(37位)	所得格差推移(37位)	工業出荷/人口(39位)	着工戸数推移(41位)

宮代町、杉戸町、庄和町

工業団地の貢献度は低く、住宅を中心とした消費都市。
人口の割に昼夜間人口比が低い。(77.8)一人あたり民力水準は県内したから2番目であり、県東部の中核性はあまり認められない。

狭山都市圏	江戸期は宿場町、戦後の基地の町を経て、住宅、工業都市として発展。智光山公園、稲荷山公園。狭山茶が特産。										
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業						
131.3 130.0	1市	16	16	113.2	製造業						
工業出荷額(1位)	工業出荷額/人口(1位)	工業小売推移(5位)	スーパー店舗/人口(8位)	工業小売比率(1位)	人口伸び率(35位)	小売販売推移(37位)	預金残高/人口(36位)	若者比率(34位)	若老比推移(38位)	商店販売推移(40位)	着工戸数(38位)

ホンダを中心とした工業都市。
工業出荷額は群を抜いて高い。その結果、工業小売比率も1位となっている。都心から38キロ、都心に向かう学生は少なく賃貸よりも戸建て指向。着工戸数が低いため、人口の伸びも鈍っている。若者の比率が急速に低下している。

一人あたり民力水準は102.7。県内6位。

羽生都市圏	古代の地名「埴生」は埴輪の里の由来。淡水魚を集めた「さいたま水族館」宝蔵寺沼のムジナモ。田山花袋作「田舎教師」の舞台の町。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
40.7 43.4	1市	5.7	424	90.2	商業
スーパー推移(2位) 工業出荷推移(3位) 工業小売比率(3位) 乗用車数(3位)	DID地区推移(8位) 昼夜間人口比(8位) 商店販売推移(6位) 小売販売推移(4位) 工業出荷/人口(4位) 工業小売推移(4位) 所得格差推移(7位) 預金残高/人口(7位)	人口(38位) DID地区人口比(38位) 商店販売額(37位) 小売販売額(38位) 小売販売/人口(35位) 小売商店数(37位) スーパー店舗数(38位) 飲食店数(35位) 預金残高(33位) 若老比率(38位)	所得格差(39位) 高齢化緩和度(40位)		

工業小売比率3位に見られるように工業都市の性格を持つ。人口が少ないことが、成長率を高められない理由。秩父に次いで高齢化が進んでいることも注目される。
民力総合指数43.4は日高、鳩ヶ谷に次ぐ県内39位。

鴻巣都市圏	中山道の宿場町。300年の伝統を誇る雛人形と赤物(練り人形)鉢物花卉が特産。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
60.7 65.6	1市1町	9.1	671	106.3	農業、製造業
	DID地区推移(10位) 工業小売比率推移(10位) 乗用車数推移(10位) 若者比率(6位)	昼夜間人口比(36位)昼 夜間人口比推移(32位) 商店販売推移(32位) 小売販売推移(32位)小 売販売/人口(36位) スーパー店舗推移(37位) 飲食店数(34位) 飲食店数推移(38位) 預金残高推移(36位)	飲食店数/人口(39位)		

川里町

小売、商業、スーパーが伸びない。工業小売比率推移が高まっている。
かつて反映した古い町も東京のベッドタウンとして個性を失いつつある。
一人あたり民力水準は91.3(36位)

深谷都市圏	国道17号線沿い、群馬県に接する工業都市。日本煉瓦ホフマン輪窯、渋沢栄一出身地を誇る。深谷ネギ、ほうれん草、チューリップ(切り花)の生産量は日本一。VTR等電気機械の工業生産は県内上位。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
92.2 98.6	1市12町	12.1	8973	102.1	農業、製造業
DID 地区推移(3位) 所得格差推移(1位) 乗用車数(1位)	昼夜間人口比(7位) 小売販売/人口(6位) 小売商店数/人口(7位) 工業出荷額(9位) 工業出荷額/人口(5位) 飲食店数/人口(6位) 飲食店数推移(6位) 工業小売比率(6位) 着工戸数推移(5位) 乗用車数推移(7位) 若者比率(9位)	DID 地区人口比(35位) 所得格差(37位) スーパー店舗/人口(37位)	昼夜間人口比推移(39位) スーパー店舗推移(39位)		

DID 地区の推移が3位ということは、ここへきて都市化が進んでいること。乗用車台数が多いことも特徴的。県北では珍しく若者の比率が高い。
一人あたり民力水準は103.0であり、県北随一の高さを誇る。

上尾都市圏	県平野部中央に位置する住宅工業都市。上尾運動公園(国体会場、大規模水泳施設)。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
171.1 194.9	1市1町	24.9	2132	111.2	製造業、商業、サービス業
	人口(8位) 人口伸び率(8位) 商店販売(6位) 商店販売/人口(5位) 小売業販売(8位) スーパー店舗数(7位) スーパー店舗/人口(5位) 工業出荷額(8位) 飲食店数(10位) 着工戸数(8位) 着工戸数推移(9位) 預金残高(9位)	小売商店推移(33位) 所得格差推移(32位)	小売販売推移(40位) 小売商店/人口(39位)		

商工業ともに人口順と合致し、バランスはとれている住宅都市。
一人あたり民力水準は99.1と全国平均並み

草加都市圏	奥の細道第一夜の草加宿で有名。名物草加せんべい。国際ハーブフェスティバル。窯業、土石品製造業がのびている。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
156.4 181.5	1市	22.7	2027	110.7	製造業
	人口(9位) 人口伸び率(7位) DID地区人口比(5位) 商店販売額(10位) 小売業販売額(9位) 小売商店数(9位) 飲食店数(8位) 着工戸数(6位) 着工戸数推移(9位) 預金残高(8位) 高齢化緩和度(9位) 若老比率(9位) 若老比推移(7位)		スーパー店舗/人口(36位) スーパー店舗推移(32位) 飲食店数推移(34位) 所得格差推移(35位) 乗用車数(37位)		

市街化比率90.2%。昼夜間人口比81.8% 典型的なベッドタウンである。高齢者に比べ若者の増加が多い。

民力指数は越谷に劣るが、一人あたり民力水準は逆転している。草加101.2対越谷90.9

越谷都市圏	江戸時代の宿駅。織物の町から現在はベッドタウン。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
226.0 243.2	1市1町	33.8	2975	109.3	サービス業
	人口(4位) 昼夜間人口比推移(8位) 商店販売額(5位) 小売販売額(6位) 小売商店数(5位) スーパー店舗数(6位) 飲食店数(4位) 預金残高(4位) 預金残高/人口(9位) 預金残高推移(6位) 高齢化緩和度(8位) 若老比率(8位)		商店販売推移(34位) 工業出荷推移(35位) 工業小売比率推移(33位) 着工戸数推移(33位) 乗用車数推移(32位)		工業出荷/人口(40位) 工業小売比率(39位)

工業比率が低い、商業を中心としたベッドタウン。
乗用車、着工ともに推移は下位であり、あまり大きな変化がない。
草加同様に高齢者の増加よりも若者の増加が多い。
民力総合指数が、260.3 243.2とマイナス17.1下落し、全県一の下落となっている。

蕨都市圏	江戸時代の宿駅。織物の町から現在はベッドタウン。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
58.6 55.2	1市	6.9	775	115.4	商業、サービス業
DID 地区人口比(1位) 小売店数/人口(2位) 飲食店数/人口(1位) 預金残高/人口(3位)	昼夜間人口推移(5位) 商店販売推移(5位) 小売販売/人口(4位) 小売店数推移(8位) スーパー店舗推移(8位) 着工戸数推移(6位) 所得格差(7位) 預金残高推移(10位)	人口(32位) DID 地区人口推移(33位) 工業出荷額(32位) スーパー店舗数(32位) 高齢化緩和度(34位)	総面積(41位) 人口伸び率(40位) 工業小売比率推移(40位) 乗用車数(41位) 若者比率(41位) 若老比率(39位)		

全国一小さな都市。

下水をはじめとするインフラはほぼ完成している。

人口は上福岡につき、減少している(マイナス4.3%)若者の減少と高齢者の増加双方が進んでおり、秩父とは違う意味で活性化が懸念される。

民力水準101.5 産業はあまりないが、所得をはじめ、一人あたり民力水準は高い。

戸田都市圏	戸田の渡しの時代から交通の要衝であった商工住宅都市。世界有数の静水コースでボート競技のメッカ。戸田ボートコース。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
74.5 96.1	1市	10.7	1305	126	製造業、他
人口伸び率(2位) DID 地区人口比(3位) 昼夜間人口比(2位) 商店販売/人口(2位) 小売販売/人口(1位) 着工戸数(2位) 所得格差(3位) 若者比率(1位) 高齢化緩和度(1位) 若老比率(1位) 若老比推移(1位)	商店販売(9位) スーパー店舗/人口(9位) 飲食店数/人口(10位)	総面積(34位) 商店販売推移(37位) スーパー店舗推移(32位) 工業出荷推移(38位) 工業小売比率推移(37位) 着工戸数推移(34位) 預金残高/人口(35位) 預金残高推移(38位) 乗用車数(36位)	昼夜間人口推移(41位) 小売商店推移(41位) 飲食店数推移(41位) 工業小売比率推移(39位) 乗用車数推移(40位)		

人口増につれ、商店、小売販売が増加している。

着工戸数も増加、所得も高い。昼夜間人口比の推移が最下位なのは、人口増によるベッドタウン化が進んだことを示している。若者の減少も県内一少なく、高齢化も遅い。

一人あたり民力水準は114.3であり、県内1位。

入間都市圏	県南の狭山丘陵で東京都下に隣接、近世は宿駅、商いの町として栄えた田園都市。味日本一の狭山茶、日本一の道標。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
101.1 108.9	1市	14.8	1305	108.8	農業、製造業
	DID 地区推移(4位) 小売販売推移(10位) スーパー店舗推移(6位) 若者比率(7位) 若老比率(10位)		小売商店数/人口(32位) 工業出荷推移(34位) 飲食店数/人口(38位) 飲食店数推移(32位) 工業小売推移(37位) 着工戸数(35位) 預金残高/人口(38位) 預金残高推移(37位) 若老比推移(32位)		

DID 地区人口比が高まっているのは都市化の指標。若者の比率が高い。
合併の話がある狭山市とは、人口はほぼ同じだが、民力総合指数 狭山(130.0)入間(108.9) 一人あたり民力水準 狭山(102.7)入間(93.4)と狭山に分がある。

鳩ヶ谷都市圏	日光御成街道の宿場町、市場町として発展。1950年に川口市から独立。埼玉高速鉄道の開業によって都市化が進行。工業製品の半導体製造。植木、苗木、つり竿等が特産。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
41.8 43.1	1市	5.5	404	100.6	商業
DID 地区人口比(1位) スーパー店舗推移(3位)	小売商店数/人口(6位) 着工戸数(5位) 着工戸数推移(4位)		人口伸び率(33位) DID 地区推移(34位) 昼夜間人口比(38位) 商店販売額(38位) 小売販売/人口(37位) 小売商店数(33位) 小売商店数推移(32位) 工業出荷/人口(33位) 飲食店数(38位) 工業小売推移(38位) 預金残高(37位) 預金残高/人口(32位) 若者比率(34位) 若老比率(37位)		総面積(40位) 人口(39位) 商店販売推移(39位) 小売販売額(39位) スーパー店舗数(40位) スーパー店舗数/人口(39位) 工業出荷額(40位) 工業出荷推移(39位) 所得格差推移(39位) 乗用車数推移(39位)

DID 地区人口比、市街化率ともに100%なのは蕨と同様に、都市化が進み、すでに開発の余地はあまりないことを示している。

着工戸数増は、埼玉高速鉄道の開業のためだろうか。

預金残高、スーパー店舗数、飲食店ともそれぞれ低いのは、周りを囲まれている川口市に依存しているせいだろうか。

駅のない市であったが、駅ができてきたために、乗用車の伸びは38位とごく低い。

民力総合指数は43, 1と日高に次ぐ40位

朝霞都市圏	平安時代、「広沢庄黒目の里」と呼ばれ、江戸時代は川越街道の宿場町。朝霞米軍基地跡地利用の陸上競技場、図書館等がある。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
78.7 105.2	1市	11.8	891	125.3	他
人口伸び率(3位) 着工戸数(1位) 着工戸数推移(3位) 若老比推移(2位)	DID地区人口比(7位) 所得格差(4位) 若者比率(4位) 若老比率(6位) 高齢化緩和度(7位)	総面積(33位) 商店販売/人口(35位) 小売販売/人口(34位) 小売販売推移(38位) 工業出荷額(34位) 工業出荷額/人口(35位) 工業出荷推移(37位) 飲食店数推移(37位) 工業小売比率(34位) 乗用車数推移(38位)	商店販売推移(41位) 小売商店/人口(40位) 小売商店推移(40位) 乗用車数(39位)		

工業、商店の伸びが低いことは、ベッドタウン化が進んでいることを示す。
人口が伸び、所得格差も高いことは特筆に値する。若者の比率も高い。
一人あたり民力水準は県内1の伸びを示し(+17.9)112.3と県内3位に躍進している。

志木都市圏	新河岸側舟運の河港、物資集散地として江戸時代から発展。大規模な志木ニュータウン。チョウショウインハタ桜(世界に1本)				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
47.2 51.3	1市	6.6	587	125.1	商業
	DID地区人口比(4位) スーパー店舗推移(4位) 所得格差(5位)	総面積(38位) 人口(36位) DID地区推移(33位) 昼夜間人口比(32位) 商店販売/人口(32位) 小売販売額(36位) 小売販売推移(33位) 小売商店数(35位) スーパー店舗数(34位) 工業出荷額/人口(37位) 飲食店数(37位) 飲食店数/人口(34位) 飲食店数推移(36位) 工業小売比率(37位) 所得格差推移(33位) 預金残高(32位) 乗用車数(34位) 乗用車数推移(37位) 若者比率(32位)	商店販売額(39位) 工業出荷額(41位)		

DID 比率(99.4%)市街化率(70.8%)面積9平方キロ(38位)であることは、ほぼ都市化が完了段階に近づいていることである。
一人あたり民力水準を見ると 和光(110.2)朝霞(112.3)に比べ志木(98.6)新座(96.4)
昼夜間人口比を見ると 和光(83.6)朝霞(84.2)に比べ志木(79.4)新座(81.9)
4市の中でも県南の2市の数値が高く、2極化が進んでいる。

和光都市圏	川越街道の宿場町、戦後、工場や住宅が進出し衛星都市として発展。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
43.8 59.0	1市	6.8	701	134.9	サービス業
人口伸び率(1位) 小売販売推移(1位) 所得格差(1位) 若老比率(3位) 若老比推移(3位)	DID地区人口比(5位) 商店販売推移(4位) 小売販売/人口(7位) 着工戸数(7位) 所得格差推移(8位) 高齢化緩和度(5位) 若者比率(8位)	総面積(37位) 人口(33位) DID地区推移(32位) 昼夜間人口比(32位) 昼夜間人口推移(37位) 商店販売額(33位) 預金残高(36位) 預金残高/人口(33位)	小売商店数(41位) 小売商店数/人口(41位) 小売商店数推移(39位) スーパー店数(40位) スーパー店/人口(41位) スーパー店数推移(41位) 工業出荷推移(40位) 飲食店数(41位) 飲食店数/人口(41位) 工業小売推移(41位) 乗用車数(40位) 乗用車数推移(41位)		

人口の伸び、所得格差ともに県内1位。若者と老人の比率も上位を占めている。
民力水準110.2と高水準を示している。この9年間の都市の充実度は高いというべきだろう

新座都市圏	300年の歴史を持つ野火止用水が市内を流れる住宅都市。名刹平林寺(知恵伊豆の菩提寺)。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
103.2 112.5	1市	14.8	1180	115.4	製造業
	商店販売推移(10位) スーパー店舗推移(10位) 所得格差(8位) 預金残高推移(4位)	小売商店数/人口(38位) 小売商店推移(35位) 飲食店数/人口(36位) 乗用車数(33位) 乗用車数推移(34位)	飲食店数推移(40位) 所得格差推移(40位)		

出版流通倉庫をはじめとする流通の拠点であったが、最近ではあまり大きな変化はない。昼夜間人口の比が他の3市に比べ高い。新座(+3.4) 朝霞(+0.9)志木(+2.0)和光(-1.2)

桶川都市圏	江戸期は中山道の宿場町、明治以降は農産物の集散地として発展。ホンダ飛行場、ペに花作付け面積日本一。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
52.5 54.5	1市	7.4	673	107.9	商業
商店販売推移(2位) 飲食店数推移(2位) 預金残高推移(3位)	昼夜間人口推移(6位) 商店販売/人口(7位) スーパー店舗/人口(4位) 工業出荷額推移(7位) 工業小売推移(6位) 預金残高/人口(4位)	スーパー店舗推移(34位) 工業出荷額(35位) 飲食店数(33位) 着工戸数(34位)	着工戸数推移(39位)		

人口増(+4.9%)なのに、商店、飲食店数はそれを上回って増加している。

久喜都市圏	室町期に開かれた古河公房隠棲の地。提灯祭り「天王様」。梨、イチゴ、梨ワイン等の産物				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
106.2 116.1	1市3町	15.5	1342	105.4	農業、製造業、商業、サービス業
所得格差推移(3位)	工業出荷額(10位) 工業出荷額推移(9位) 工業小売比率推移(8位)	飲食店数/人口(32位) 預金残高推移(34位) 若老比推移(36位)	スーパー店舗推移(40位)		

菖蒲町、栗橋町、鷺宮町

工業生産が伸び所得格差も上がっている。
一人あたり民力水準は、周辺の都市よりも若干高いものの、94.8であり、全国平均よりも低い。

北本都市圏	中山道の宿場町、60年代以降は大規模住宅団地の進出により宅地化。石戸蒲桜（国天然記念物）				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
46.7 51.1	1市	7	597	108.6	商業、サービス業
スーパー店舗/人口(2位) 工業出荷額推移(1位) 工業小売比率推移(3位)	昼夜間人口比推移(7位) 小売販売推移(7位) 小売商店数推移(9位) 飲食店数推移(10位)	総面積(32位) DID地区推移(38位) 商店販売額(32位) 小売販売額(35位) 小売商店数(34位) 工業出荷/人口(32位) 工業小売比率(32位) 飲食店数(36位) 飲食店数/人口(33位) 預金残高(35位)	昼夜間人口比(39位) 工業出荷額(39位)		

昼夜間人口比75.8であり、最近上昇しているものの、元の数値が低くベッドタウンの要素が強い。工業の伸びが高いことが特徴的である。民力総合指数51.1に見られるように産業基盤は小さいが、今後に期待できそう。

八潮都市圏	中川と綾瀬川に挟まれ、農業地帯から70年代以降は宅地化、工業化が進んだ。産業は小松菜、山東菜、ネギ等の農産物と金属加工業、ゴム加工品等、特産物の白玉粉、東京本染め浴衣等が有名。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
55.9 59.1	1市	7.4	651	100.3	製造業
昼夜間人口比(1位) 工業出荷/人口(3位)	昼夜間人口比推移(10位) 商店販売/人口(4位) 商店販売推移(7位) 小売販売推移(6位) 工業小売比率(4位) 高齢化緩和度(6位) 若老比率(7位) 若老比推移(9位)	総面積(35位) 人口伸び率(32位) 小売販売額(32位) 小売商店数(32位) スーパー店舗数(37位) スーパー店舗/人口(38位) スーパー店舗推移(38位) 工業小売比率推移(34位) 所得格差(32位)	所得格差推移(41位) 預金残高(41位) 預金残高/人口(41位) 預金残高推移(41位)		

一人あたり工業出荷は高い、昼夜間人口比も高いことは工場労働者が周辺から集まっていることになる。若者比率は上位ではないが、高齢者の増加が進んでいない。民力水準101.4であり、平均よりも高く所得格差の順位よりも実力があることになる。駅のない都市である八潮は、今後常磐新線の開業によって産業基盤の充実が期待できるといえる。

富士見都市圏	日本最古の月待供養板碑、竪穴式住居跡のある水子貝塚（国指定文化財）全国初の試みのライフヘルパー制度、独り暮らし老人を対象とした緊急通報システム。陸上競技用砲丸、ハードルを生産。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
95.4 105.1	1市1町	13.7	1055	113.7	農業、製造業、サービス業
昼夜間人口比推移(2位) 着工戸数推移(2位)	預金残高推移(8位) 所得格差(10位) 高齢化緩和度(10位)	昼夜間人口比(34位) 小売販売/人口(33位) 小売商店数/人口(36位) 飲食店数/人口(35位)	DID地区推移(39位)		

三芳町

北側の上福岡と違い、いくつかの点で異なる

一人あたり民力水準 富士見(96.7) - - 上福岡(105.1) 民力総合指数 富士見(105.1) - - 上福岡(45.2)
昼夜間人口比が107.1である三芳町を含む富士見都市圏は、産業基盤の一部を三芳町に依存していることがうかがえる。

上福岡都市圏	川越市に隣接する住宅都市、50年代後半に霞ヶ丘、上野台の2つの公団団地を機に急速に都市化が進展。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
46.3 45.2	1市	5.4	373	106.1	製造業、サービス業
昼夜間人口比推移(1位) 飲食店数/人口(3位) 工業小売推移(2位) 着工戸数(3位) 着工戸数推移(1位) 預金残高/人口(2位)	DID地区人口比(9位) 小売商店数/人口(9位) 小売商店推移(6位) 工業出荷推移(10位) 預金残高推移(9位)	DID地区人口推移(33位) 昼夜間人口比(37位) 商店販売推移(38位) 小売商店数(36位) スーパー店舗推移(35位) 工業出荷額(36位) 所得格差推移(38位) 乗用車数(38位) 高齢化緩和度(37位) 若老比推移(33位)	総面積(39位) 人口(40位) 人口伸び率(41位) 商店販売額(41位) 商店販売額/人口(41位) 小売販売額(40位) 小売販売額/人口(40位) 小売販売推移(41位) スーパー店舗数(39位) スーパー店舗/人口(39位) 若者比率(40位) 若老比率(40位)		

人口が県内でもっとも減少している(-6.3%)そのため、人口減少に伴う項目が上位に並んでいる。人口を分母とするために、分母の値が小さくなったことから数値が大きめに出ることによる。若者の減少と高齢者の増加が続き、活力低下は蕨と同じ原因によるものだろうか。世帯当たり着工戸数の増加には、住都公団の団地建て替えも含まれていると考えられる。所得格差が高いのは、低所得の若年層が少ないことの反映であろう。建て替えによって住民構成が高い所得層の増加になるのであれば、小売販売も上昇する要素になるだろう。

三郷都市圏	東京都と千葉県に接し、江戸川、中川に挟まれた田園住宅都市。古くからの早場米産地。東京20キロ圏にあって、広大な開発可能地（武蔵野線操車場跡地周辺等）を保有。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
89.0 88.9	1市	12.9	1016	104.5	農業、製造業
小売業商店数推移(2位) 預金残高推移(1位) 高齢化緩和度(3位)	乗用車数推移(4位) 若老比率(5位)		人口伸び率(38位) 商店販売/人口(34位) 小売商店数/人口(34位) スーパー店舗推移(33位) スーパー店舗/人口(35位) 工業出荷/人口(34位) 工業出荷推移(36位) 工業小売比率(33位) 工業小売比率推移(35位) 所得格差推移(36位)	着工戸数(40位) 若老比推移(39位)	

三郷市も県内41市の中で人口が減少した6市の一つである。外環道沿いでは唯一の減少市。元々、若者比率が高かったのが、急速に若者が減っている。民力水準が87.9であり、県内最下位、隣接する吉川市の98.9と大きく離れている。

蓮田都市圏	県東部に位置しさいたま市と接する衛星都市。主要産物は梨。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
72.2 81.8	1市1町	11.3	795	113.8	農業、製造業、商業、サービス業
	人口伸び率(6位) 所得格差(9位) 乗用車数推移(8位)		DID地区人口比(32位) 商店販売/人口(38位) 小売商店数/人口(35位) スーパー店舗/人口(32位) 着工戸数推移(38位) 若者比率(33位)	昼夜間人口比(40位) 小売販売/人口(39位) 飲食店数/人口(40位)	

白岡町

人口増と所得の上昇が目立つ。一人あたり民力水準92は、県東部の他の都市と比べると中位。久喜(94.8)、幸手(91.9)、春日部(87.5)、岩槻(97.5)

坂戸都市圏	川越市に隣接し、八王子と日光を結ぶ宿場町として栄えた新興住宅都市。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
	1市3町	16.5	1286	102.4	サービス業
小売商店推移(3位) スーパー店舗/人口(3位)	総面積(8位) スーパー店舗数(10位) スーパー店舗推移(7位) 飲食店推移(9位) 預金残高/人口(6位) 預金残高推移(7位) 乗用車数推移(9位)	人口伸び率(33位) 昼夜間人口推移(38位) 小売販売/人口(32位) 工業小売比率(36位) 工業出荷/人口(36位) 工業出荷推移(33位) 着工戸数(36位) 若者比率(37位) 若老比推移(37位)	DID地区人口推移(40位) 商店販売/人口(40位)		

毛呂山町、越生町、鳩山町

昼夜間人口比が下落している(88.7 87.3)東京への都心回帰から県内の多くの市が昼夜間人口比を上昇しているのに対し、坂戸は都市としての求心力が低下している。かつて県内一の若さを誇っていた都市であったが、若者の減少が顕著である。

人口の割にスーパー店舗数が多く、飲食店も増えている。

一人あたり民力水準は、坂戸91.4であり、鶴ヶ島(97.7)や日高(93.7)よりも低い。

幸手都市圏	県東部の奥州街道の宿場町として栄えた田園都市。桜の名所権現堂堤。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
	1市1町	6.6	630	97.3	農業
商店販売推移(3位) 乗用車数推移(2位)	小売販売/人口(9位) 小売販売推移(9位) 小売商店数/人口(8位) 小売商店推移(4位) 工業出荷/人口(7位) 工業小売比率(5位) 所得格差推移(9位) 乗用車数(10位)	人口(35位) 人口伸び率(36位) DID地区人口比(34位) 商店販売額(35位) 小売販売額(33位) スーパー店舗数(36位) スーパー店舗/人口(34位) 飲食店数(32位) 所得格差(35位) 預金残高(34位) 若者比率(39位) 若老比推移(39位)	DID地区人口推移(41位) 着工戸数(41位) 着工戸数推移(40位)		

五霞町

歴史の浅い市であるが若者の減少が著しい。着工戸数と人口の伸び、ともに悪化している。工業小売比率が高い一方小売販売も低い、人口あたりの数値は高まってきている。所得格差や乗用車は数値を上げてきているから、将来を期待すべきだろう。

鶴ヶ島都市圏	川越市、坂戸市に接する。70年代以降電気機械等の工業化と宅地化が進展。平均年齢は県内で若い方。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
45.8 51.5	1市	6.7	785	112.3	商業、サービス業
小売販売/人口(2位) 小売商店推移(1位) スーパー店舗/人口(1位) 高齢化緩和度(1位)	商店販売/人口(10位) 飲食店推移(4位) 乗用車数推移(5位) 若老比率(4位)	総面積(36位) 人口(34位) 小売商店数(38位) 工業出荷額(37位) 工業小売比率(35位) 若老比推移(35位)	昼夜間人口比(41位) 預金残高(39位) 預金残高/人口(40位)		

人口増を上回る小売店の売り上げ増が見られる。ベッドタウン化が進んだ一方、工業出荷額が伸びていない。新規に開発された区画整理地は、流通とホームセンターであるための現象である。老人の比率は戸田と並んで県内一低い。民力水準の伸びは9年間で9.3ポイントアップし、県内では朝霞、吉川、和光、戸田に続く5位となっている。

日高都市圏	高麗王によって開かれた県西の都市。産業はウド、茶、栗等の農業と自動車部品等の工業。光学機械製造成長が著しい。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
37.5 39.9	1市	5.4	364	105.9	製造業
DID 地区推移(2位) 小売販売推移(3位)	昼夜間人口推移(4位) 小売商店数推移(10位) 工業出荷額推移(8位) 工業小売比率(10位) 飲食店推移(5位) 乗用車数(8位)	人口伸び率(37位) DID 地区人口(33位) 小売商店数/人口(33位) 工業出荷額(33位) スーパー店舗数(34位) 飲食店数/人口(37位) 着工戸数(32位) 預金残高推移(32位) 若者比率(38位)	人口(41位) 商店販売額(40位) 商店販売/人口(39位) 小売販売額(41位) 小売販売/人口(41位) 小売商店数(40位) 飲食店数(40位) 預金残高(40位) 預金残高/人口(39位) 若老比推移(41位)		

若者比率は3位から38位に急降下。人口の最も少ない若い市でありながら、人口が減少している。そのため、上福岡同様に人口を分母とする項目が上位に並んでいる。民力総合指数39.9は県内最下位。一人あたり民力水準は93.7と県内7位の伸び率となっている。

吉川都市圏	千葉県に接し、江戸川と中川に挟まれた早場米の産地。中川舟運の農産物の集約地として発展。武蔵野線開通を契機に都市化が急進。種籾、吉川ネギ、花菖蒲、レタス等を生産。本場所用の土俵作り、400年の伝統のある川魚料理。				
民力総合指数 (94年)(03年)	都市圏指標	圏域人口 (万人)	小売り販売 額(億円)	所得格差	主要産業
34.2 45.0	1市	5.8	489	107.2	農業、商業
商店販売推移(1位) 小売販売推移(2位) 若者比率(2位) 若老比率(2位)	人口伸び率(4位) DID地区人口推移(7位) 小売商店数推移(7位) スーパー店舗数/人口(6位) 工業出荷推移(4位) 飲食店数推移(8位) 着工戸数(4位) 着工戸数推移(8位) 所得格差推移(4位) 高齢化緩和度(4位) 若老比推移(8位)	人口(37位) 昼夜間人口比(33位) 商店販売額(34位) 小売販売額(37位) スーパー店舗数(32位) 工業出荷額(38位) 預金残高(38位) 預金残高/人口(37位)	小売商店数(39位) 飲食店数(39位) 預金残高推移(40位)		

若者比率2位に示すごとく、人口増が著しい。着工も多く、ベッドタウン化が進んでいる。所得格差の伸びも高い。民力水準の伸びは15.3と朝霞に次いで2位の伸びとなっている。